管理番号	59

研究内容の説明文

献血者説明用課題名※ (括弧内は公募申請課題名)	B型肝炎ウイルス感染早期献血の検出法の開発 （B型肝炎ウイルス感染のウインドウ・ピリオドにおける新規スクリーニングマーカーの探索）
研究期間	平成28年1月　～　平成32年12月
研究機関名	国立研究開発法人国立国際医療研究センター国府台病院 肝炎・免疫研究センター
研究責任者職氏名	肝疾患研究部長　考藤達哉

※献血者に対しても理解しやすく、平易な文言を使用した課題名を記入してください。

研究の説明

1　研究の目的・意義

献血血液による輸血後B型肝炎の発症は、感染スクリーニング検査の導入によって激減しました。2014年からは個別核酸増幅検査（NAT検査）が導入されて、さらに輸血用血液の安全性は向上すると考えられています。しかしながら、B型肝炎ウイルスが感染し、核酸増幅検査で感染が確認されるまで約34日かかるとされています。この時期（ウインドウ・ピリオド）には極微量のウイルスが血液中に存在しており、輸血されると感染する危険性があります。

B型肝炎ウイルス感染のウインドウ・ピリオドに感染を検知するマーカーを見つけることで、感染血液をふるい分けし、輸血用血液の安全性をさらに高める方法を開発したいと考えています。

2　方法《献血血液の使用方法含む》

献血血液から血漿を分離します。血漿中に含まれる様々な生理活性因子（サイトカイン、ケモカインなど）を酵素免疫測定法で定量測定します。B型肝炎ウイルスが検査によって検出される前に上昇する因子を確認します。

3　予測される研究の成果等

B型肝炎ウイルス感染のウインドウ・ピリオドにおいても、B型肝炎ウイルス感染を検出出来る因子が同定出来れば、献血血液の安全性を高め、血液資源を有効に利用することが可能になります。

受付番号	29J0063

本研究に関する問い合わせ先

所属	国立国際医療研究センター国府台病院　肝炎・免疫研究センター
担当者	考藤達哉
電話	047-372-3501
Mail	kantot@hospk.ncgm.go.jp

本書は日本赤十字社ホームページで公開され、必要に応じ献血者への説明資料として使用されます。